

小学生の部親子賞 入選

読む知る学ぶ

**E!** 新聞

新聞っておもしろい

会津若松市 一箕小6年 佐藤 遼河君

小学校低学年のころのぼくは、新聞なんておもしろくないし、どうせ読んで何の意味もないと思っていました。ぼくの家では、引っこしをしてから新聞を取り始めました。その時母に、「新聞を読んでみたら」と言われましたが、字がたくさん書いてあって、習っていない漢字もたくさんあったので、全然読む気にもなれませんでした。そんなある日、祖父母が家に「ジュニア新聞」を持って来てくれました。その新聞は、字もそ

いなあと読むこともありませんでした。しかし、おもしろい記事を自分で見つけて読んでみると、知ってそうで知らなかったことがたくさん見つかりました。これらの体験がきっかけで、自分から新聞を読む機会が増えました。新聞を話題にして、友達や家族と話をすることが多

くなりました。以前は、正直新聞を読む時間もなくて、購読していませんでした。しかし、子どもの成長に合わせて、少しずつ自分の時間ももてるよう

親子のコミュニケーション

母 佐藤 陽子さん

子どもが小さい頃は、正直新聞を読む時間もなくて、購読していませんでした。しかし、子どもの成長に合わせて、少しずつ自分の時間ももてるよう

でも楽しいです。姉も〇〇の記事がのっていたよ」と、ぼくの興味のある記事を見つけた時には教えてくれます。新聞を読むことが苦手という人も多いと思うので、ぼくの体験をもとに、「おもしろそうな記事から読んでみるよ」といいます。息子の興味がありそうな記事を見つけて切り抜いてあげると、時々自主学習で感想を書いてくれるようになります。子どもが自分から新聞を広げて読むというのは難しいかもしれませんが、そのよ

うな時には記事を見つけてあげるのも、活字に触れるきっかけになるのではないかと考えています。

現代では、「ジュニア新聞」なるものがあり、子どもでも興味をもって読むことができます。息子も時々読んで、「お母さん、知ってた」と、新聞で得た情報を、私に質問してきます。私も「へー」と驚かされる情報が載っていて、大人でも楽しむことができます。何より新聞をきっかけに親子で会話ができるのも魅力だと思います。

こうして振り返ってみると、新聞購読をきっかけに、活字を通じた親子でのコミュニケーションが増えたと実感しています。「ゲーム障害」の子どもが増加している現代、ゲームやテレビから少し離れることが必要です。私は、これからも子どもと共に、意識して新聞に触れる機会を増やしていきたいと思っています。